

おはようございます。

先週は卒業式がありました。参加した2年生は記憶に新しいと思います。卒業生たちはみんな立派な姿で卒業していきました。合唱もたいへん見事で、涙を流しながらも一生懸命歌う姿がありました。

卒業証書を受け取る瞬間、この時見せる卒業生の表情は、証書をわたす校長先生にしか見られない特別な表情です。どんな顔をしているかという、どの人も真剣そのもの、そして、緊張しながらもしっかりと目を合わせてくれます。まるで、「これから頑張るので見ていてください」と、誇らしげに目で語っているように見えます。義務教育を終えて、自分の意志で人生を進もうとするたくましさといったらいいのでしょうか。人は何かを成し遂げると、こんなに気高い表情になるのだと改めて感動しました。

皆さんもやがて、先輩のあとを追います。そのための、今日は一つの節目の日です。それぞれが1年間の修養を積み、今、どのくらい心と体が満たされたでしょうか。自分をひとつのコップに例えてみてください。このコップに、これまでのさまざまな勉強や、運動や、人との出会いや、何かをチャレンジした経験などを水のように注いだとき、今、どのくらい満たされていますか。そして、その量にあなたは満足していますか。ちょっと考えてみてください。1年の節目には、こうやって今の自分を見つめなおす時間が大切です。

「竹、節あって強し」という言葉があります。竹の節は、皆さん知っていますね。もし、竹に節がなかったらどうなるでしょう。中身がただの空洞なので強い風が吹いたらポキンと折れてしまいます。節があるからしなやかに曲がり、曲がっても折れることなく元の形を保とうとします。竹、節あって強し、とはこのことを言います。

人生も節目が肝心です。人生の節目に、しっかり立ち止まり、今の自分はどんなレベルまで到達したのだろうか、人生の地図のどこを歩いているのだろうか、と見つめなおす静かな時間をもってみましょう。それが強い節目を作り、しなやかで力強い竹のような生き方を支えてくれます。

通知表に載っている担任の先生の言葉も、自分を振り返るヒントを与えてくれるでしょう。明日からの春休み、次に伸びるための準備をしっかりしてください。

先生の話は以上です。